

# 北九州出身気象学者 藤田博士

## 世界を救う



藤田哲也博士  
(提供：藤田哲也博士記念会)

地球の特異気象、中でも竜巻や上昇、下降気流の研究で人々を災害から救い、「ミスター・トルネード」と呼ばれた藤田哲也博士。生まれ故郷・北九州で今、博士の功績を後世に語り継ぐ活動が注目を集め、来春（2022年4月）には市内に新しく誕生する科学館で、その人、功績等を紹介する展示が計画されている。

※竜巻といえば、日本をはじめ全世界で発生しているが、なかでもアメリカでは年間平均1500個も起き被害も甚大。し

かし、同国はかつて発生回数、被害に注目するも、強度については無視していた。同国のシカゴ大学で研究生生活の藤田博士はそれに気付いて1971年、被害の程度からその強さをF0（秒速17〜32kmの軽度被害）からF5（秒速116〜142kmの信じられない被害）まで等に区分することを考案、やがて日本、アメリカをはじめ全世界で「Fスケール」として使われることになった。ちなみにFはフジタ博士のエフ。

同年にはまた、大規模竜巻は内部に速度がより早い子竜巻を持つ二重構造であることを提唱、これは1979年、テキサスで撮影された写真で実証され、防災に大きな役割を果たした。

### 航空機事故で ダウンバースト発見

1975年6月24日、ニューヨークのジョン・F・ケネディ空港。イースタン航空旅客機が突然の豪雨、突風で墜落、乗客乗員112人が死亡する事故が発生した。直前には別の航空機が無事着陸している



アメリカ・テキサス州で1979年撮影された二重構造の竜巻。藤田博士の提唱が証明された（提供：藤田哲也博士記念会）

ことから、当局はパイロットの操縦ミスが事故原因と判断した。だが航空会社側は納得できず、当時すでに名を知られていた藤田博士に調査を依頼。博士は当時の気象状況や風速などを入念に調査。「雷雲から下降して地面に衝突し、放射状に広がった強風による事故」と結論づけた。当然、他の研究者から異論もあつたが、「ダウンバースト」と名付けたその理論は、その後の調査研究でその現象が証明され、1977年9月、航空の安全にとって極めて重要であるとしてカナダ・オタワでの国際会議で表彰を受けた。これによって空港に設置するドップラーレーダーでダウンバーストを感知して航空機事故を防止することが常識になった。これら藤田博士の数々の研究、成果が果たした役割は限りなく大きい。

藤田博士は大正9年（1920）10月、企救郡曾根町（現・北九州市小倉南区中曾根）出生。旧制小倉中（現・県立小倉高校）から明治専門学校（現・九州工業大学）に進んだ。小学校教員だった父友次郎氏の影響で早くから自然観察、特に

天体、地質学が好きで、明治専門学校では地質学教授の研究助手となった。1945年8月、原爆投下直後の長崎に物理学助教として調査に行き、1947年8月には福岡・佐賀県境の脊振山測候所で雷雲の観測を行った。この時である。上昇気流で押し上げられた積乱雲の下部から強力な下降気流が発生していることを確認した。当時、シカゴ大学のバイヤース教授が同様事象を確認していることを知り、背振山での調査結果を送ったところ、驚いた同教授から招聘を受け、東京大学で理学博士資格を取得後の1953年、渡米。以後、シカゴ大で竜巻、ダウンバーストを始め様々な研究を重ねた。なお未知なるものへの興味を抱き続けていたが1998年（平成9年）11月、同地で78年の生涯を終えた。

### 人、郷土への愛が 世界を結ぶ

そんな藤田博士は故郷が一番の心の拠り所だった。日本気象予報士会員森さやか女史は著書で、博士は病状の悪化とともに郷愁の思いが募ると、「兎追いし彼の山小鮒釣りし彼の川」と口ずさんでおられた、と記す。九州工業大の22年後輩に当たる富田侑嗣名誉教授（78）も博士の郷土愛に感じ入り、また「その業績は竜巻などの災害を調査、分類するだけでなく、アメリカ社会の防災体制を確立させ、人類社会に今後の研究材料を提言した」と評する。そして「そんな博士を地元のほとんどが知らないのが残念です」とも。



小倉南区中曾根の生家近くの藤田博士の墓碑。碑に、竜巻の形が刻まれている。

藤田博士は晩年、弟の碩也氏に先立たれ「両親、弟、妹が無言で待っている中曾根に必ず帰ります」と碩也氏の家族に弔辞を寄せた。その2ヶ月後に自らも旅立ち、翌年、遺骨となって帰国し中曾根に葬られた。その時、ゆかりの人たちにより藤田記念館建設準備委員会（後、藤田博士記念会に改称）が結成され、地元有志を中心に顕彰・啓発活動を行っている。「Fスケールなど数々の新説、ダウンバースト発見による航空機離発着時の事故激減等数々の偉業を成し遂げた偉大な気象学者が、ここ北九州から世界に羽ばたいたことを誇りに思う」と同会。新しい科学館でその姿を再見できる。

シニアスタッフ 村田和夫

### ※日本での竜巻

国内では鴨長明「方丈記」などに「辻風」の表記で治承4年（1180）、京都で発生したことが最も古い記録。現在の京都市内を約3km走り抜け街は壊滅的な被害を受けたという。現代では1990年12月、千葉県茂原市でマイクコバスなど千台以上の車が吹き飛ばされ74人が死傷、建物243棟が全半壊する大惨事が起きた。

今回の歴史文化塾は感染予防のため中止致します。